

就職に強い 大教大 をめざして



横井副学長にインタビュー

就職実績は大学の魅力、ブランド力をはかる大きなメルクマールです。

本学は“就職に強い大学”をめざし、学生の就職支援を中心的に担うキャリア支援センターを2010年4月に設立しました。3年目を迎えた今年度、新たにキャリア支援センター長に就任した横井邦彦副学長にインタビューしました。

(総務広報係)

—今年度、キャリア支援センター長に就任され、入口(入試)から出口(就職)まで担当されるということですが、ご抱負を。

横井 大学にとって重要なポストに就くことになり、身の引き締まる思いです。

わたしは、これまで入試担当の学長補佐を3年、そのあと教養学科長を4年務めさせていただきました。その間、常に入試には携わらせていただきました。ですので、入試業務には少なからず経験があると思っていますが、問題は出口(就職)の部分です。といいますのも、入試で志願者を増やしたい、本学に来てほしいという場面では、必ず大阪教育大学の特色をアピールしなければなりません。

本学は教員養成を中心とした大学なので、

生徒や保護者から「大阪教育大学に入ったら先生になれますか」というシンプルな問いを受けます。「大丈夫です」と答えます。ただ、「遊んでいて先生になれると思ってはいけません。本学が提供しているメニューをみなさんが熱心に学ばれるなら、必ずや先生になれます」と申し添えます。

正規教員採用数 全国のトップレベルを

—全国44の国立教員養成系大学・学部の中で正規採用者数は、常にトップレベルにあります。それに安住してはいけないと思います。支援の具体的な取り組みを紹介していただけますか。

横井 1つは豊富な教職経験をもった元公立学校長のキャリア・アドバイザーによる指導、2つ目は充実した教員就職対策ガイダンス、3つ目は教員採用合格者の体験報告会、4つ目は元公立学校教員を面接官としての模擬面接、模擬授業及び場面指導の実施、5つ目は、本学教員による実技試験対策講座の実施—など、充実を図っているところです。

—教員就職は、平成13年度以降、採用数の上昇が続き、全国的にみて今がピークを迎えています。しかし、教員養成への私学の参入と急激な少子化により採用数の急減期は必ず訪れるだろうと予想されます。先行きの状況は厳しいと言わざるを得ません。

横井 今後5年後ぐらいから、大阪府の採用数が減ってくると予想されています。ただ、本学としては、採用数の動向を念頭に置きつつも、様々な取り組みにより質の高い教員養成を継続的に行っていくことに尽きると考えます。教員になることを希望した学生の思いが実現できるよう全力を挙げて取り組んでいきたいと思っています。

新しく副センター長を迎え 企業就職支援にも力こぶ

—本学には教養学科があり企業就職等も大きなアピールポイントだと思います。当然、「教養学科でどのような就職ができますか」という問いもあると思いますが。

横井 その通りです。教養学科の学生の約2割強が教員になります。全学で200人を超える学生が民間企業や公務員に就職しています。今後ますます、希望者が増えていくと考えています。ですから、民間企業等への就職を今まで以上に充実させる方針で様々な支援を進めていきます。

—今年度は、キャリア支援センター副センター長に民間企業から田崎悦子さんが公募で採用されました。期待がかかりますね。

(参考)過去3カ年 就職状況[教員養成課程(第二部含む)]

区 分	平成22年 3月卒業	平成23年 3月卒業	平成24年 3月卒業
公立学校			
小学校教員	254	249	220
中学校教員	65	62	62
高等学校教員	26	17	26
幼稚園・特別支援学校教員	34	25	24
公立学校以外の教員	27	28	17
教 員 計	406	381	349
企業就職	36	31	45
公務員	12	17	14
進学(大学院・専攻科)	66	77	72
未就職・不明等	86	79	101
合 計	606	585	581

(参考)過去3カ年 就職状況[教養学科]

区 分	平成22年 3月卒業	平成23年 3月卒業	平成24年 3月卒業
公立学校			
小学校教員	5	0	2
中学校教員	33	44	34
高等学校教員	21	30	43
幼稚園・特別支援学校教員	5	9	1
公立学校以外の教員	13	16	20
教 員 計	77	99	100
企業就職	140	141	129
公務員	13	22	26
進学(大学院・専攻科)	82	63	60
未就職・不明等	111	86	88
合 計	423	411	403

横井 はい、期待しています。他の大学に比べると、本学では就職指導についてはまだまだ改善していく必要がたくさんあると認識しています。自ら多彩にキャリアデザインを積み上げてきた経歴をもつ、田崎さんの活動を本学がいかにバックアップしていくのが大きな課題としてあると思います。本学の学生が企業就職をしたいという気持ちになったら、田崎さんのところへ訪ねたら自信がついたということになってほしいです。

—企業等の就職対策の状況についてはいかがでしょうか。企業や公務員への就職希望者に対する支援も年々充実させてきていますが、具体的な取り組み状況をご紹介願えますか。

横井 第1に、キャリア・カウンセラーとして経験の豊富な方をキャリア・アドバイザーとして雇用し、エントリーシートの記入、面接方法等の指導及び進路相談を実施しています。

第2に充実した企業・公務員就職対策ガイダンスの実施です。第3に本学でブース形式

による合同企業説明会や個別企業説明会の実施を行っています。第4に数多くの対策講座(エントリーシート対策講座・面接対策講座・就活マナー講座等)などを行い、充実を図っています。

キャリア支援センターでは学生のキャリア形成を支援するためのキャリア教育を1年次から実施し、同時にキャリア・アドバイザーの専門家が就職指導に当たる就職相談室を設置しています。また、教員採用試験説明会や合同企業説明会などの就職支援のための様々な行事を年間100回以上実施しています。今後も一人ひとりの学生が自らの希望に少しでも近づき、社会で活躍できるように、多様な観点からの支援を進めていきます。

—保護者、高校現場への広報活動はいかがでしょう。

横井 毎年9月に3回生(二部については4回生)の保護者対象に就職説明会を実施しています。最近はお父さんもお母さんも参加するなど、年々参加者が増えています。

「チャレンジこそ成長」をモットーに 自らのキャリア経験を生かし



キャリア支援センター副センター長
田崎 悦子

「人に影響を与える」。選択と決断を繰り返し、いろいろな業界を渡り歩いていますが、幹は一本、つながっています」

常に人と接する仕事、特に営業現場での新人育成に情熱を注いできた経験と実績、自分自身でキャリアデザインを重ねた経験、理論から学び直したキャリア教育と人脈を活用し、「本学のキャリア教育の仕事に取り組んでいきたい」と抱負を語ります。

在学中に出産した子どもを抱えての就職活動、応募3008人の難関を突破してテレビ局の報道番組専属レポーター、生命保険会社での飛び込み営業、新規航空会社での内外コーディネート業務など、仕事にかかわる武勇伝は尽きません。

4月に赴任して、まずインターンシップの積極的導入と企業就職ガイダンスの見直し、企業や団体との連携に奔走しました。また、約400人が受講する教養基礎科目「キャリアデザイン」では、理論と実践(グループワークや講演等)で授業を行っています。5月29日には元西武ライオンズ

社長兼オーナー代行の太田秀和氏((株)西武プロパティーズ専務取締役)を特別講師に招きました。太田氏は、中学高校の先輩後輩という間柄。「仕事に近道や王道はない」「こつこつと誠実に努力することが大切」。経営者としてだけでなく、「人としての生き方」のメッセージは、入学間もない学生を勇気づけたといえます。

6月13日には、教員を退職し、偶然の出会いを活かしてステンドグラス作家になった後輩の一ノ関悠子さんを招きました。

「趣味は仕事」と笑いますが、学生時代からひとり旅で奈良や長崎、北海道を訪れ、地元密着型のオリジナルな「旅」をあげます。移住した北海道は、現在「農業インターンシップ」調査の場となり、趣味と研究が合体してしまった、とのこと。「チャレンジこそ成長」。田崎さんらしいモットーです。副センター長の部屋(企業就職相談室)は事務局棟3階(学生サービス課隣)にあり、「いつでもドアは開いています」

Profile

田崎 悦子(たさき えつこ) 東京都生まれ。横浜国立大学教育学部卒業。北海道大学大学院教育大学院修士課程修了。79年テレビ朝日報道局番組専属レポーター。83年第一生命入社、指導主管、支部長。95年(株)イフ経営企画室長。97年北海道セルラー電話(株)総務部教育グループリーダー。この他、NPO法人の立ち上げや、(社)日本経営協会専任講師、北海道国際航空(株)社長付ゼネラルコーディネーター、札幌大学女子短期大学部特別任用准教授等を歴任。本年4月から現職。

企業就職等の指導では インターンシップを推奨

—最近、注目されていますインターンシップについては、田崎副センター長も重要視しておられます。企業活動も体験を通して今の学生に足りない資質を補ってくれるものだと思いますが。

横井 学生へのキャリア・アップの取り組みについては、現場体験を通して職業観を養う必要があるとし、積極的にインターンシップ活動に対する指導を行います。今年度は2回にわたる説明会や、インターンシップに関する事前・事後指導も予定しています。

インターンシップに行った学生は、職業体験を通して自身の資質、気持ちが変わります。一番、大きいのは、「やはり大学での学業を真面目にしないといけないな」と痛感することです。これは、何のために勉強するのかのテーマにつながります。

受験競争をぐりぬけてきた学生は、とかくペーパーテストの点数を高く取ることばかり気にしているところがあります。大学での学びとはそのようなことではないのです。大学の授

〈新しく着任された方の紹介です〉

「自分の教師像」を しっかり作りあげて



キャリアアドバイザー
田中 達

「そんなことで(教員採用試験を)通るか! と、ちょっときつめの声でアドバイスすることもあるのですよ」とこやかに答えるのは、キャリアアドバイザーの田中達先生です。

学生にとっては、優しいお父さんのような大教の先輩ですが、随所に現役時代(小学校長)の威厳ものぞかせます。相談に訪れる学生にとっては、頼もしい存在です。

2年間、天王寺キャンパスでキャリアアドバイザーを務めたあと、今年度から柏原キャンパスの事務局棟3階(学生サービス課隣)にある「教員就職相談室」で個人面接や集団面接などの指導を担当しています。リピーターがほとんどで、平均2~3回、多い人で5回訪れる人もいます。

業を通して、様々な学問分野の背景にある先人の考え方を身につけることが重要です。そのうえで社会の課題を自らの課題と考えられる市民として自立してほしいと思います。座学であれこれ言っても学生はびんとこないのですが、インターンシップの体験を通じて具体的に学ぶことができます。キャリア支援センターのスタッフが中心となって学生の就職支援を進めていけたらと考えています。

Profile

横井 邦彦(よこい くにひこ) 1979年大阪大学理学部卒業。1981年大阪大学大学院理学研究科博士前期課程修了。1984年理学博士取得。1981年に大阪教育大学助手、1987年に大阪教育大学講師。1989年～1991年リバプール大学(連合王国)研究員(ラムゼーフェロー)。2007年4月～2011年3月教養学科長。分析化学を専門分野とし、「モリブデン化合物の研究」「溶出ポルタンメトリーに関する研究」「金属イオンのスペシエーション」などを研究課題とする。また、日本分析化学会、日本化学会、近畿化学工業界、日本腐植物質学会、日本微量元素学会などに属する。

「天王寺の2部学生は主体性があり、1～5回生の間のつながりがつよく、キャンパスが家庭的な雰囲気でした。柏原の学生は真面目で優等生タイプが多い。一人ひとりの能力は高いが、教職に対する意識に課題があります。各教育委員会や学校のインターンシップ等で子どもと積極的にかかわり、体験を積み上げて自分の教師像をしっかり作りあげてほしい」

「学生一人ひとりと接していると、やはり部活動やサークル活動、アルバイト等一所懸命取り組んでいる学生はひと味違います。成長に伴いしるがあります」

相談は、5、6月がピーク。また卒業生が訪ねてくることもあるといいます。親しみやすい人柄なので、敷居は高くありません。「気軽に教員就職相談室をのぞいてください。待っています」

Profile

田中 達(たなか とおる) 1950年大阪府生まれ。1973年大阪教育大学教育学部卒業。75年同大学院教育学研究科修了。75～90年大阪府公立学校教員。90年～2000年大阪府教育委員会南河内教育事務所指導主事、同義務教育課指導主事、同教職員課管理主事、同南河内教育振興センター指導室長を歴任。2000年～10年河内長野市立小学校長を歴任後、10年3月退職。10年～11年本学キャリア・アドバイザー(非常勤、天王寺キャンパス)を経て現職。

ひと 最前線

004

国立大学法人 大阪教育大学
越桐 國雄 理事

「大学構成員の コミュニケーションを」



■ 今春の人事異動で、4月から新しく理事(教育研究担当)に就任しました。「大学全体の構成員がもっと緊密にコミュニケーションできるような大学運営、組織運営をめざしていきたいと思っています」と抱負を語ります。

■ 大学の魅力発信について、「それぞれの先生方が優れた研究成果をお持ちです。教育についても、学生からの評価が非常に高い先生方がいらっしゃいます。どんどん外へ発信していきたいですね」「ただそれが、教員全体の共有財産になっていないのではないかと思います。互いに知らない部分も多く、それを大阪教育大学という名前で広げていくためには、互いにどのような研究や教育をしているのかを知る機会を意図的に設定するというのは意義のあることだと思います」。そのうえで「そのためには、柏原キャンパスで2月に行われた教育研究発表会などの工夫したイベントをさらに発展させるとともに、新しい方法として授業や教材のデジタルコンテンツを大学Webサイトで発信していく取り組みは、その牽引力になっていくと期待されます。是非全学で取り組んでいきたい」と語ります。

■ 仕事以外に熱中されている趣味は、「文楽鑑賞」といいます。「国立文楽劇場の“文楽友の会”に入って、定期的に文楽を鑑賞しています。以前、本学の事務局長をされていた野田敏明さんが、国立文楽劇場に移られまして、友の会入会のパンフレットが送られてきました。その時にはほとんど関心はなかったのですが、数年前に妻が友人からチケットを譲り受けて一緒に公演に行き、それがきっかけで人形浄瑠璃にはまってしまうました。それ以降、いつも夫婦二人で公演を鑑賞するようになりました」

■ 専門は「原子核物理学」ですが、最先端のテクノロジーと日本の伝統芸能という、全く違う分野が同居しています。「最先端テクノロジーと伝統文化、本学でもそのような様々な領域の教育や研究の出会いが新しい文化を産み出す場になると面白いですね」(総務広報係)

Profile

越桐 國雄(こしぎり くにお)
1953年生まれ。大阪大学理学部物理学科1976年卒業。同物理学専攻博士課程後期課程1981年修了。1982年から本学教員。1999年教授。



NEW FACE

ニューフェイス登場!

教養学科芸術講座(音楽)

准教授 神代 修 44歳

(くましろ おさむ)

「現役であり続け学生の潜在能力を引き出したい」

ー今年4月から教養学科芸術講座の音楽コースの教員に着任した神代先生は1967年岡山市生まれ。文部省事務官を務めていた父親の転勤で、茨城県つくば市で幼稚園の終わりから大学に入るまでを過ごしたとのことですが。

「父は東京教育大学がつくばへ移転した時の、まさに当事者でした。わたしが専門のトランペットに出会ったのは中学1年生の時。吹奏楽部に入ったのがきっかけです。当時のわたしは身体が弱く、とても運動系の部活は無理でした。こんなことは今となっては誰も信じてくれませんが(笑)」

ーそして、今や野球や吹奏楽で有名になった常総学院に進学します。

「一期生だったので、創立30年になる母校がこんなに有名になるとは夢にも思いませんでした。この学校で思う存分練習をさせてもらったおかげで東京芸術大学に進学できたと思っています」

ーところで神代さんの音楽活動に強い影響を与えた人とは?

「実は祖父なのです。本人曰く、2・26事件のあった年の暮に武蔵野音楽学校の学生として日比谷公会堂で第九を歌った、という人です。終戦から定年後まで佐賀県で音楽の

教員をしていました。彼の音楽に対する姿勢や情熱には多大な影響を受けていると思います。祖父は尊敬の対象でした」

ー大学時代にはコンクールを受けていますね。

「大学2年の時に日本管打楽器コンクールで1位となり、3年で日本音楽コンクールで1位なしの2位をいただきました。そして4年で教育実習に行き、その3日後に受けたオーディションに合格して東京フィルハーモニー交響楽団に入団しました」

ーその後の留学経験については?

「オーケストラ・プレイヤーとしてこのままではいけない、と思いウィーンの国立音楽大学に留学しました。師事したアドルフ・ホラー先生は残念ながらこの4月に他界してしまいましたが、先生にはトランペット奏法のみならず、音楽解釈に関しても決定的な示唆を与えてもらいました」

ー2年間の留学を終え、帰国しますね。

「留学途中で東京フィルは退団しておりましたので、フリー奏者として活動を始めました。すぐに教える立場も与えてもらい、大学や高校の非常勤を最大6校かけもちました。オーケストラ、室内楽、ソロ、古楽を加えた5つの活動が柱となりました。その流れで教本を書いたり、CDも出しましたが、この14年間は本当に貴重な体験となりました」

ートランペットの魅力は?

「トランペットという楽器は歴史が長く、バロックからクラシック、さらにジャズやポップスまで幅広いジャンルの音楽で主役となれることです。これは全ての楽器の中でも音が大きいため、文句なしに目立ってしまう存在だからです。その分責任の大きさはプレッシャーにもなりますが」



ー趣味は?

「これといったものはないのですが、自転車に乗ることは好きです。これから大阪で『のめり込むような』趣味を見つけられればと思います」

ーこれから、学校での意気込みは?

「音楽コースの学生は、演奏家か教員になるかの二者択一となることが多いようです。いずれの道にするにせよ、中途半端にならないよう学生の持っている潜在能力を引き出すことができれば、と思います。そのためにも自分自身が演奏活動などを通じて、『現役』であり続けることが大切だと思っています」

(聞き手・総務広報係)



余談:「神代(くましろ)という氏名は、白村江の戦い(663年)の際に登場する、時の天皇の代理人に対して与えられた呼び名が始まりとのことです。後に「かみ」を「くま」と呼びを変えますが、これは古来より日本人は暗い所、つまり「クマ」に神がおわすという信仰があるため、全く自然なことだと、とある国語学者から聞きました。戦国時代に筑後、肥前で勢力を誇った「神代大和守勝利」(かみしろやまのかみかつとし)という武将は祖先にあたります」(神代)



特別なニーズのある子どもの教育を考える全学対象の必修授業をはじめ、数多くの科目を担当しています。「聴覚障害心理」もそのひとつです。

聴覚に障害のある子どもの心理を理解して、目の前の子どもたちにどのように接し、教育を行っていくかという視点の授業です。「障害にともなう様々な現象の背景にある人間の理解を深めるのが目的です。耳が聞こえないことによって生じる現象という視点だけでなく、人間であるが故の現象という視点が重要です」

現在、クローズアップされている発達障害についても、「子どもの“行動”に対する理解や対応法だけが大きく取り上げられ、根本的な“子ども”の理解に至っていないのではないのでしょうか」と投げかけます。

「特殊から一般へ」が教育・研究のキーワードです。「以前は“特殊教育”と呼ばれていた特別支援教育ですが、特別な教育

環境、特別な子どもにおいてだけ通用するものではなく、一般の教育を視野に入れ、そこで通用するものにならないといけません」

「『特殊から一般へ』の流れは、社会においても生じています。以前、大手ハンバーガーショップには、聴覚障害者のための『オーダーカード』（文字を指さして注文できる）がありましたが、現在は通常のメニューで、文字ではなく商品画像を指さして注文できるようになっています。これは高齢者や子どもにとっても便利なシステムです。特定の人にとっても便利なものが、いろいろな人にとっても便利なものになった。これがユニバーサルデザインですね。教育の場合、たとえば学習障害児のための指導法や教材は、障害はないけれど特定の教科学習が苦手な子どもの教育にも役立てられるはずですよ」

西山准教授は、子どもの多様なニーズをどう捉えるかをテーマとしたアセスメント(心理テストなど)の授業や、体罰や虐待の問題についての研究も行っています。

大阪教育大学教育学部障害児教育専攻(平野分校)を卒業。大学院(障害児心理専修)に進み、指導教員であった守屋國光教授(現・名誉教授)に影響を受け、障害児の自我発達を専門に教育研究を修めました。修了後、社会福祉施設で10年間、心理臨床の仕事を経験したあと、私立大学に10年間勤務。3年前から本学に赴任しています。

日々接する学生についての印象は、「昔とそんなに変わらないと思いますが、強いて言えば何か忙しそうですね。時間に追われるあまり、すぐに答えを求める傾向にあるのかな。その結果、他者の出した答え(how to)に頼ってしまう。人間の理解や教育に型通りの答えなんかありません。自分の頭でじっくり考えて問題や答えを見出す、そのプロセスが大切だと思います」

DAIKYO FESTIVAL

Date: 12.5.18-20 Place: 柏原キャンパス

新入生歓迎行事 ・(五月祭)

恒例の五月祭及び春季スポーツ祭が5月18日(金)から20日(日)まで柏原キャンパスで開催されました。五月祭は、大学生活に慣れていない新入生が中心となって力を合わせて祭りを創りあげていくことにより、新しく出会ったキャンパスの仲間たちと交流を深め、友情を育み、ともにこれからの大学生活への期待と青春の情熱を分かち合う機会として毎年開催されています。



Band!

SATSUKI FESTIVAL
初日



当日は、快晴に恵まれ、模擬店やライブコンサートのほか、サークルの展示、映画、ダンスなどの発表会といった企画が催されました。



Danceで大盛り上がり!

SATSUKI FESTIVAL
2日目



いらっしやいませ~



大盛況
でした~!!

Thank you for coming!

地域の小・中学生や保護者・市民たちもたくさん訪れました。



SNAP!

Date: 12.5.19

Place: 柏原キャンパス

第7回かしわら国際交流フェスティバル

大阪教育大学と柏原市との共催による「第7回かしわら国際交流フェスティバルーつながろう、柏原から世界へー」を5月19日(土)に柏原キャンパスで開催しました。今回は五月祭(春季大学祭)と同時開催となり、本学留学生、学生、一般市民を合わせて700人が参加し、大勢の人で盛り上がりました。



かしわら国際交流フェスティバル



今年度も、歌・踊りを披露するステージ、各国料理の提供、各国の文化紹介をするふれあいテーブルと3つのイベントを同時進行で実施しました。

フラダンスもやってま〜す!



みんなで記念撮影!



Music!

留学生や、学生、一般市民の方など大勢の人で盛り上がりました!



Interview!



かしわら国際交流フェスティバルは、大阪教育大学と柏原市のさらなる国際化を推進するため、本学留学生と市民との交流を図り、異文化理解、国際理解に寄与することを目的としています。



いいね!
Yukataで勢揃い!

卒業生 CATCH!

CATCH!

島 健輔さん
Kensuke Shima

30 歳

•教養学科自然研究専攻2008年3月卒
•八尾市立桂中学校教諭

4年目をむかえ、一段と成長

本

学を卒業後、八尾市内の市立中学校で1年間講師を経験。2009年4月から桂中学校に赴任しました。担当教科は理科で、今年度、3年の担任です。

「1、2年目は授業が成立しなくて、壁にぶつかってばかりでした。教科を教える前に、生徒との関係づくりの大切さを痛感しました。席に着こうとしない生徒への声かけ、叱るときのタイミングなど、生徒を学習に向かわせるポイントなども学びました。その過程では、先輩教職員のサポートがたくさんありました」

広報スタッフが中学校を訪れた日(6月5日)、島教諭は3年生の理科授業を行っていました。テーマは物理分野の「分力と合力」です。生徒一人ひとりに学力の格差があることから、グループ(生活班)単位で、生徒同士が教え合い高め合う学習を展開していました。つまづいているとみられる生徒のそばによって、直接語りかける場面が随所に見られました。生徒も、島教諭の丁寧な説明に耳を傾け、うなずいていました。

「なぜ教師をめざしたのですか?」という問いに、「自分の経験を人に伝える仕事をしたかったのです。相手が子どもであつたら面白いのではないかと」。兵庫県出身ですが、「近畿圏にある教員養

成系大学で、大教が一番だと思っていますから」

「入学から卒業まで、学費や生活費はバイトと奨学金でまかないました。サークル活動はできなかったけれど、社会経験はありますから生徒に話す引き出しはたくさんもっていますよ」。中学校教員を選んだ理由については、「子どもたちは大人になるぎりぎりの年代で、見方も鋭い。一番面白い世代だと思っています。わたし自身振り返って、記憶に残っているのは中学校時代の先生でした」

担任しているクラスは1年からの持ち上がりで、3年担任は初めて。「卒業にむけ、全員が高校進学を希望しており、一人ひとりに沿った進路

に歩ませてあげたい」と語尾に力が入ります。

大教の後輩には、「今の大学生活をめいっぱい楽しんでほしい。ずっと勉強だけだとつまらないでしょう。バイトや仲間との交友、旅などの経験が人間としての味になり、教師としての幅を広げると思うのです」とエールを送ります。

小林一夫校長は「1、2年目は戸惑いもあったようでしたが、4年目をむかえ一段と成長した一人です。さらに経験を積み、これから八尾の教育を担う若手のホープとして期待しています」と話していました。

STUDENTS NOW!

「宇宙や天文に関心を」

野口 亮

Ryo Noguchi

- 大学院 教育学研究科
理科教育専攻 天文学研究室
- 大学院修士2回生



「今年は天文現象の当たり年です。星空を何度も見上げてほしいです」

2012年は、地球に最も近づく満月「スーパームーン」が世界各地で観測された5月7日を皮切りに、5月21日の金環日食、6月4日部分月食、同6日の「金星の日面通過」(金星が太陽の表面を動く)、8月14日の「金星食」(金星の前を月が横切って金星を隠す)など珍しい天体現象が目白押しです。

とりわけ夏以降は金星のパフォーマンスが目立ちます。秋にはオーストラリア・ケアンズで皆既日食があり、本学の福江純教授(天文学)らと学生らが研究観測に訪れるとのこと。

「これをきっかけに、宇宙や天文に関心をもつ人が増え、“山ガール”ならぬ“宙(そら)ガール”がブームになってほしいですね」

天文学研究室と宇宙科学研究室の大学院生、学部生は今年3月、柏原市内の小学生とその保護者を対象に「観望会」を本学天文観測ドームで実施しました。続いて5月には学生だけで、八尾市内の小学生らを対象に「観望会」を企画・実施、17人の参加がありました。本学自慢の口径51cm反射望遠鏡を駆使して、宇宙や星のお話を子どもたちに語り

かけました。

金環日食の当日は、研究室と天文同好会のメンバー20人が柏原キャンパスと天王寺キャンパスの二手に分かれて観望会を実施しました。口径8cmの小型望遠鏡に減光フィルターをかけ一眼レフカメラに収めるとともに、ビデオカメラでも撮影を行いました。光の色の変化をキャッチする「スペクトル観測」、月の表面の凸凹を確認する「ベイリーズビーズ観測」にも成功しました。

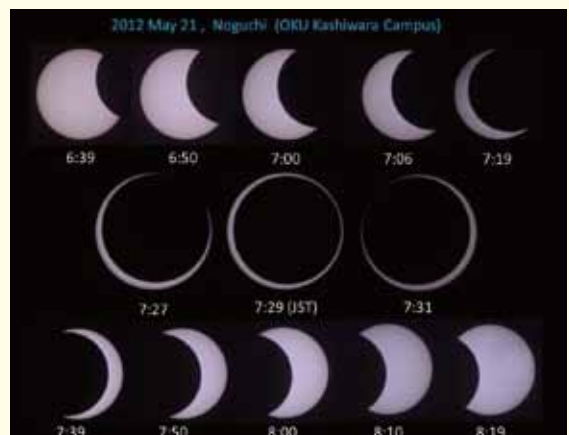
野口さんは兵庫県南あわじ市生まれ。「田舎なので満天の星空が広がっていました。父からこの星は〇〇星座だによって教えてもらい、幼心にわくわくどきどき、いつまで見ても飽きなかったですね」

大阪教育大学に入ったのは小学校の理科教師になったから。入学すると迷わず天文学研究室に入りました。天文好きの仲間もたくさんできました。そのひとり、学部の小学校理科教育課程3回生の貴村仁君がいます。貴村君はギリシア神話と星座のことにな

ると夢中になり、何時間でも話すことができる星座博士だそうです。「様々なイベントを仲間と助け合い、企画運営しています。頼りになる後輩がたくさんいます」

野口君らは今年10月にも第2回の「観望会」を実施するため企画を練っています。

福江教授のお話「もともと学生の自主性を重んじる研究室ですが(放任主義とも言う;笑)、最近は野口君たち院生が非常にアクティブなので、研究室の第二期黄金時代と思っています。引き続き頼みますヨ」



附属学校園ウォッチ

今春 赴任 新校長の第一声



グローバル人材の 育成をめざして

附属高等学校長
吉田 晴世

文部科学省は、グローバル化する世界の中において、我が国の若者は「内向き志向」であり、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍する「グローバル人材」を継続的に育成する必要があると述べています。

では、グローバル人材の要素とはいったい何なのでしょう。語学力・コミュニケーション能力は基本要素としてあげられるでしょう。次に求められるのは、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感といったものですが、これは、附高生が日々の学校生活で培っている行動、まさしくそのものです。そして最後に必要とされるのは、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーだと考えられます。

語学力をしっかりと習得し、日本人としての誇りを持った、豊かな感性と思いやりあふれる、「カッコイイ」若者の育成に携わっていけるよう、3附属間での密なる交流を大前提に、校長磨きに勤めます。



伝統と革新を 両輪に

附属平野小学校長
木原 俊行

本校は、2010年に創立110周年を迎えた、長い歴史を誇る学校です。これまでも、スタッフは、学校教育目標たる「ひとりで考え ひとと考える 最後までやりぬく子」に即して、子どもたちの全人的な成長を促してきました。また、教員志望学生の力量形成に資する教育実習プログラムを提供してきましたし、教育実践研究のすぐれた成果を世に発信してきました。

わたしは、学校長として、それらの伝統を継承しつつ、今後、今日の附属学校に求められている使命、例えば、公立学校の教育実践に対するサポート機能等も重視して、附属平野小学校の存在感をいっそう高めていきたいと考えております。

教育実践力に長けた教職員を有していますが、それでもなお、伝統と革新を両輪とする学校像の追究が十全なものになるためには、関係各位のお力添えが必要です。我々の努力、チャレンジに対して、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



「個が生きる学校」 の達成にむけ

附属天王寺小学校長
水野 恵司

大都市中心にある本校ですが、校舎の屋根に達する巨木は伝統を感じさせます。季節ごとに花を咲かせる樹木や草花があり、ボランティアの方々に世話をしている豊かな教材園もあります。

先日、子どもたちにトンボがいるよと校内の池に連れられてきた時、ちょうど十数匹のヤゴが羽化して一斉に飛び立つところでした。トンボが広げたばかりの羽をゆっくりと上下させ、飛び立つ準備をするのを子どもたちはじっと観察し、傷つけないように、やさしく触れたり、池に落ちたものを助けたり、飛び立つ瞬間を拍手したりしています。都会の子どもは自然から遠ざかり、管理された空間で遊ぶというわたしの見方は、修正しなければなりません。

子どもたちは、季節や自然への豊かな感受性とやさしさを持っているようです。教育・研究に情熱を注ぐ先生方と保護者の活発なPTA・後援会活動を中心に、卒業生の母校への愛情、OB教員からの見守りに支えられ、子どもたちは、充実した学校生活を送っています。本校の目標「個が生きる学校」達成と附属学校としての責務を果たすべく、全力を尽くしたいと考えています。



一貫性と 継続性のある 指導・支援を

附属特別支援学校長
金森 裕治

学校教育法の一部改正によって平成19年度から「特別支援教育」が本格的に実施され、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくことになりました。そして、現在は「特別支援教育」から「インクルーシブ教育」の実現にむけた取り組みがなされています。

このように教育界の変化が進む中で、本校は「教育実習校、研究校、地域のモデル校」としての役割が期待されています。その期待に応えられるように「教育課程」と「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を見直し、一貫性と継続性のある指導・支援を進めていきたいと考えております。広域から本校に入学された児童生徒のみならずや保護者の皆様にも、「附属特別支援学校に来てよかった」と言ってもらえるように本学の特別支援教育講座と連携しながら、教育内容の充実をめざしていきたいと考えております。ご理解とご協力をお願いします。

今年度からこの欄を担当する事務局長の若井祐次です。
どうぞよろしくお願いします。

01 「理系分野をめざす女子高校生のための大学説明会」を開催



「理系分野をめざす女子高校生のための大学説明会」を6月10日(日)、柏原キャンパスで開催しました。

この説明会は、本学の「男女共同参画推進行動計画」の理念に基づき、男女の進学率に偏りがある分野を中心に、進路選択に関わる情報提供を行うもので、当日は30人の女子高校生と同伴者24人の計54人が参加しました。

初めに鈴木真由子学長補佐(男女共同参画推進担当)による基調講演「あなたのキャリアは〇ーガラスの天井を打ち破れ!」

があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

続いて、本学に在学する理系の女子学生3名をパネラーに迎え、パネルディスカッションが行われ、参加者はパネラーの経験談やアドバイスを聴き、真剣な表情で質問や相談をしていました。

〔パネルディスカッション〕
コーディネーター＝副学長 野田文子教授
パネラー＝理科教育講座 石川聡子准教授▽大学院総合基礎科学情報分野1回生 中居宏恵▽数学教育専攻4回生 楠本絵里子▽自然研究専攻4回生 竹中飛鳥

02 犬童 徹画伯(本学名誉教授)の代表作が本学に寄贈

本学名誉教授で画家(二紀会委員)の犬童 徹(いんどうとおる)画伯(70)が制作した油彩画の大作1点＝写真＝が6月13日(水)、本学に寄贈されました。



作品は、第57回二紀展(2003)に出品された代表作「ジャズに魅せられて」(F150号)で、事務局棟(N棟)4階西側壁面に展示されました。犬童さんは「学生たちや教職員に是非見てほしい」と語っていました。

長尾学長は「先生のご厚意に感謝いたします。学生や教職員のみならずには、本学元教員で高名な画伯の代表作を間近に見て絵画の素晴らしさを味わってほしい」と話していました。

03 障がい学生修学支援ルームを開設

本学では4月から、柏原キャンパス内(C6棟217号室)に障がい学生修学支援ルームを開設し、様々な活動を実施しています。

すべての学生が同等に教育を受ける権利を保障するよう、障がいのある学生の修学支援の充実をめざします。

障がいのある学生とその保護者からの支援要請に基づいて1人1人の学生のニーズに応じた支援計画の作成を行い、実践にあたっては、学内の関係諸部局と連携し、支援

学生の協力を得ています。

同ルームは、本学の木立英行教授がルーム長を務め、コーディネーターの安福純子特任教授、学生サービス課職員らがスタッフを務めています。

支援協力学生は、「聴覚障害学生と共に手話を学ぶ会」などのサークルに所属している学生を中心に、意欲ある学生らで構成されています。

現在登録している約60人の支援協力学生が支援ルームと連携協力して活動しています。学生の皆さんは支援ルームの支援協力学生養成活動(講習会)に参加して、ぜひルームの活動に協力してください。興味のある学生は下記連絡先まで気軽に連絡してください。

なお、7月1日、ルーム紹介のリーフレット(A4カラー)を発行しました。ご参照ください。



【障がい学生修学支援ルーム】
(C6棟 217号室)
TEL&FAX 072-978-3479
開室時間8:30～17:15
Mail sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

本誌にご意見をお寄せください。

総務広報係では、今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.22 webアンケート



「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本紙は再生紙を使用し、環境にやさしいベジタブルインキで印刷しています。この印刷物は、17,000部を590,200円で、すなわち1部34.7円で作成しました。



料金受取人払郵便

柏原支店
承認
29

差出有効期間
平成25年1月
31日まで

切手不要

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他 () | | |